

様式1		令和3年度 学校評価表														
学校教育目標		社会で通用する基礎・基本を磨き、 よりよい自分・学校・社会を目指そうとする生徒の育成														
a ミッション 【地域・社会における 本校の使命・存在意義】		地域に誇れる学校づくり ～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～					a ビジョン 【実現しようとする 本校の将来像】		○オール因島南（学校・家庭・地域）で、連携・協働し、生徒を育む学校 ○学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校 ○社会の変化に対応し、向上心を持ち、思いを実行に移せる学校							
尾道市立因島南中学校																
評価計画						自己評価					学校関係者評価			改善計画		
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント		m 改善案
											イ	ロ	ハ			
育成する資質・能力「主体的に学ぶ力」「表現力・コミュニケーション能力」「はがれ落ちない基礎基本」	確かな学力の育成	学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことができる生徒の育成。	【ふるさと学の推進】 ○自分の身のまわりの生活や社会を意識させる指導内容を工夫する。 ○各教科、道徳、特別活動と総合的な学習の時間「ふるさと学」を関連させ、学んだことを発信する意欲を高める。	生徒アンケートQ31「自分の学んだことを人生や社会に生かそうと思う」生徒の割合【7月11月実施】	90%	83%	93%	103.3%	A	感染症対策でいろいろの制約を受ける中、新たなカリキュラムを編成しながら取り組んだ。道徳では学校生活と結びつく形で順番を組み替えて実施した。1年生では地域を知るための学習をした。2年生は職場体験学習が無くなったので、修学旅行で学ぶことをそれに代わる学習として取り組んだ。3年生はタブレットを活用し、プレゼン形式で全員がふるさとへの提言ができるように取り組んだ。			○	・コロナ禍で2年間も地域の人との交流の場が作れない中で工夫してしっかり取り組んでいると思います。 ・コロナ禍で、計画通り体験学習ができないなかで、工夫して他の体験学習の中に同様な目標内容を入れて体験させたり、地域学習を行ったりして、学んだことを発信する意欲を高める取組は良かったと思います。 ・コロナ禍を想定したカリキュラムを編成しておく必要がある。 ・小学校の既習事項も含めて指導形態も含めてしっかり連携しておくことを!! ・地域の中で「人対人」で感じるぬくもりやあたたかさ、そして言葉の重みなどを実感することはできなかったでしょうが、今回の取組で地域に対して色々なことを考えることは出来たと思います。	1年生では、小学校で学んだことを深める学習を進めていく。2年生では修学旅行での自然科学や歴史に関する学習を企画実施する。3年生では全員がタブレットを利用して今までの学びの集大成としふるさとへの提言をプレゼン作成する。	
		本質的な問いを工夫し、授業をファシリテートできる教職員の育成。	【授業改善の推進】 ○授業のめあて、振り返りとゴールイメージを持ち、授業をファシリテートできる教職員の育成。 ○学習課題（ミッション）として本質的な問いを工夫し、生徒の意欲や探究心を高め、表現力を育成する。 ○教育用タブレットとGsuiteを活用した授業づくりの推進	生徒アンケートQ1～10「○の授業は、「できた」「わかった」と感じることがある。」と答えた生徒の割合（全教科平均）【7月11月実施】	85%	72%	83%	97.6%	B	昨年度から生徒が意欲的に授業の見通しを持って取り組めるような学習課題（ミッション）を設定し、10月27日の公開研究会に向け、タブレットの活用を中心に取り組みを進めた。研究会のアンケート結果も、回答者11名のうち「大変参考になった」8名、「やや参考になった」3名、「否定的回答」なしという出席者からの評価だった。			○	・「できた」「わかった」の割合が全科目1学期より増えており、社会科以外の教科が80％を超えている。継続した取組の成果だと考えます。社会がなぜ低いのか分析し取組を進めてください。 ・教師の「やったつもり」と「指導したつもり」と子供の満足度（アンケート数値）に乖離が生じることが…。 ・教師が見通しをもって授業改善を進めることを継続、深化させて欲しい。 ・生徒アンケートでは全体的に肯定的評価が高くなっています。とりわけ2年生の評価が高くなっている。その要因を分析できれば、他の領域にも生かすことができると 생각합니다。	めあて・ミッション・振り返りがリンクする授業改善が一定の成果をおさめた。タブレット学習について、中学校でもより効果上がるように連携を進めている。3年間の成果と課題を検証し、次年度に引き継ぐ内容と新たに構築する内容を検討し、次年度のテーマを設定する。	
		「社会で通用する基礎・基本」を身につけ、活かすことができる生徒の育成。	【基礎学力の定着】 ○「学びのサイクル」の充実・発展 ・授業と家庭学習と南中タイムと試験を連動させ、個別指導に丁寧に取り組む。 ○家庭学習習慣の定着 ・委員会による課題提出の取り組み	調査問題の全国の正答率以上 1年生：標準学力調査4月 2年生：標準学力調査4月 3年生：全国学力・学習状況調査5月	100%	97%	98.2%	98.2%	B	標準学力調査（1、2年生）、全国学力学習状況調査（3年生）の、国語・数学の正答率の2教科平均全国正答率と本校の正答率を比較すると、1年生では96.8%で、2年生では97.5%で、活用力に課題がある。3年生では100.1%であった。全校平均では98.2%であった。			○	・目標値に近づいています。今後も継続した取組を進めてください。 ・経年変化をみると、教科によって課題が異なっているように見えます。教科に合った改善ができるといいと思います。 ・教科によっては基礎問題に焦点をあてて生徒の自己肯定感につなげていくのも1つの方法だと思っています。	誤答分析を進めたうえで、どうしてもその間違いが起こったかを把握し、その間違いが起こらない授業改善を進める。各学年の活用問題の全国比が、1年生-4%、2年生-2%、3年-3%で課題となっている。思考・判断・表現を伸ばしていけるような授業改善を進める。	
豊かな心の育成		常に向上心を持ち、実行できる生徒の育成。	【向上心・実行力の育成】 ○「特別な教科 道徳」の充実 『プラスワン作成・助言→取り組み・実践→自己評価・他者評価→反省・改善→新たなプラスワン作成』のサイクルの定着と充実に向けた指導を進める。 ○教材ごとに教材吟味シートで吟味を重ね、生徒実態を踏まえた道徳の授業づくりを進める。	生徒アンケートQ23「みんなで何かに取り組み、やって良かったと感じることがある」と捉えている生徒の割合【7月11月実施】	90%	79%	83%	92.2%	B	生徒の意見発表や委員会活動などの普段の活動を大事にしながら取り組みを進めた。2学期では感染症対策をしっかりとしながら体育タイムや学習発表会の取り組みを実施し、評価指標項目が1学期比+4%となった。			○	・今後もみんなで取り組む「場」を設定するとともに、一人一人活躍できる「役」も設定し支援して達成させ充実感を味わわせてください。 ・個別指導の具体例や実績と家庭学習の定着状況は？ ・大きな行事を充分な形で実施できない中で、日頃の取組や、小集団での活動を大切にしてください。	2学期に実施した体育タイムや学習発表会について、感染症対策をとる新たな形を検討し、生徒がやりがいや充実感を得られるように工夫して取り組んだ。「学校生活が楽しい」と答えた生徒の割合が1学期比+7%であった。感染症対策を万全にしながら行事の充実をめぐる。	
				生徒アンケートQ16「プラスワンが達成できるように努力している」と捉えている生徒の割合【7月11月実施】	90%	81%	78%	86.7%	B	プラスワン(目標)については手立てや結果について評価を記入することやステップアップ(日記)にも適ことの評価をしているが、細かな評価をすることでさらに目的意識を高める。			○	・コロナ禍でこの数値は評価できる。行事がない中、「日常生活の中で意識することが多い」 ・実施できなかった悔いさをバネに次の目標に生かせる方を!! ・ピンチをチャンスに生かせる方法※丁寧な面談を!! ・日常生活の中にある目標を持ち自己評価することでも自己肯定感の向上に繋がっていくと思います。	2学期に、体育タイムや学習発表会、部活動では新チームでの大会が実施された。今後も見通しと目的意識を持って自ら課題設定ができるように計画的にプラスワンを提示し、振り返りやこれからの自分について考える機会を設定する。	
		生活習慣の改善ときめ細やかな見取りと対応による不登校生徒の減少	【不登校の未然防止】 ○生徒理解・安心できる集団づくりの推進 ・アセス活用、面談、学級経営の充実 ○不登校生徒への支援の充実 ・教育相談・家庭連携・関係機関等との連携の充実 ・SCとの教育相談委員会の充実、 ・SSWの活用による生活改善の推進	アセスの結果「友人サポート」因子56%以上、「教師サポート」因子60%以上【7月11月実施】 新たな長期欠席生徒を出さない。（昨年度18人）昨年度長期欠席生徒のうち好ましい変化が見られるようになった生徒数の増加【7月12月集計】	友人56%以上 教師60%以上	友人56.5% 教師59.4%	友人60.4% 教師61.2%	友人107.9% 教師102.0% 平均104.9%	A	アセスを使って集計した結果、友人サポートが60.4、教師サポートについては61.2となった。またその他の因子についても、すべて50を超えており、生徒理解や安心できる集団づくりができていますと受け止めている。			○	・継続して取組を進めてください。 ・生徒指導の課題や解決できる（つながら）友人サポートに!! ・日々の取組により全体として良い傾向にあると思います。	STEP UPで、日々の活動や行事における悩みや思いを把握し、即時対応ができています。引き続き取組を進める。	
魅力ある学校づくりと働き方改革の推進																
		働き方改革の意識を持ち、個々の教職員が業務改善に取り組むことで生徒が、生き生きと生活を送ることができる学校づくり	【働き方改革の推進】 ○働き方改革の意識向上 「自分も起点」という位置に立ち、協働して取り組む教職員組織の育成。 ○超過勤務時間の削減	働き方改革アンケート肯定的評価全項目の肯定的評価平均80%以上【6月11月実施】	80%	86.7%	70.3%	87.9%	B	生徒と向き合う時間の確保が4.3ポイント上昇したが、業務で充実感を得られるが依然として66.7%で変化がなかった。2学期中盤から年末にかけて、2名の職員が病休となり、代員が整うまで業務の分担が増えたため負担感が増したことも要因の一つである。			○	・体をケアし、心に余裕を持って取り組んでください。健康第一です。 ・情報共有の在り方や指導の格差を埋められる組織的な生徒指導体制づくりの対策を!! ・特別な指導の増加で様々な業務に影響が出ていることがよく分かります。基本的には「つながり」「先生どうし」「先生と生徒」を大切にこれからもよりよくお願いします。	負担感の要因は様々なあるが、なかでも繰り返される生徒指導の対応に苦慮している。教育活動に充実感を得られるよう、若手職員の学級経営や保護者連携を支援する職員の組織体制づくりをさらに進めたい。	
【自己評価 評価】 A：100≦（目標達成） C：60≦（もう少し）<80						B：80≦（ほぼ達成）<100 D：（できていない）<60					【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。					